

**R-18**  
ADULT ONLY

**姫騎士アリンシアの受難**

触手服は  
姫騎士に寄生したい

PRESENTED BY  
聖華快樂書店

監修 by エルトリア

黒ラバーの触手服  
に寄生された姫騎士は  
触手の執拗な責め  
に屈し快楽に溺れる

**ぴっちり  
ラバーズーツ  
には逆らえない!**

いやあああつ!

**産卵**

**ホテ腹**

**コミック65ページ**



レイスヴァイン王立騎士団の団長・  
アリシア・フォン・レイスヴァイン

肩書き相応の  
実力を持つ彼女は

街の近くに出没した  
人食い熊の討伐に  
出向いていた

ふう。  
熊如きにごすらすられて  
しまったな……

早く街に戻りたい  
ところだが……

さすがにこれでは  
街に入れないな

確か近くに  
小川があったはず

軽く血を  
洗い流してから  
帰るか

ガサ  
ガサ



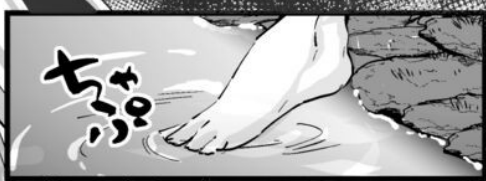
うーん……  
また大きく  
なっているような……

たゅ…

たゅ…

これ以上  
大きくなると

剣を振るのに  
支障が出かねないのに……





な、なんだっ

これっ!



ひゃあっ!?



いやあああっ!...

くああっ!?

入って、  
来るなあ!

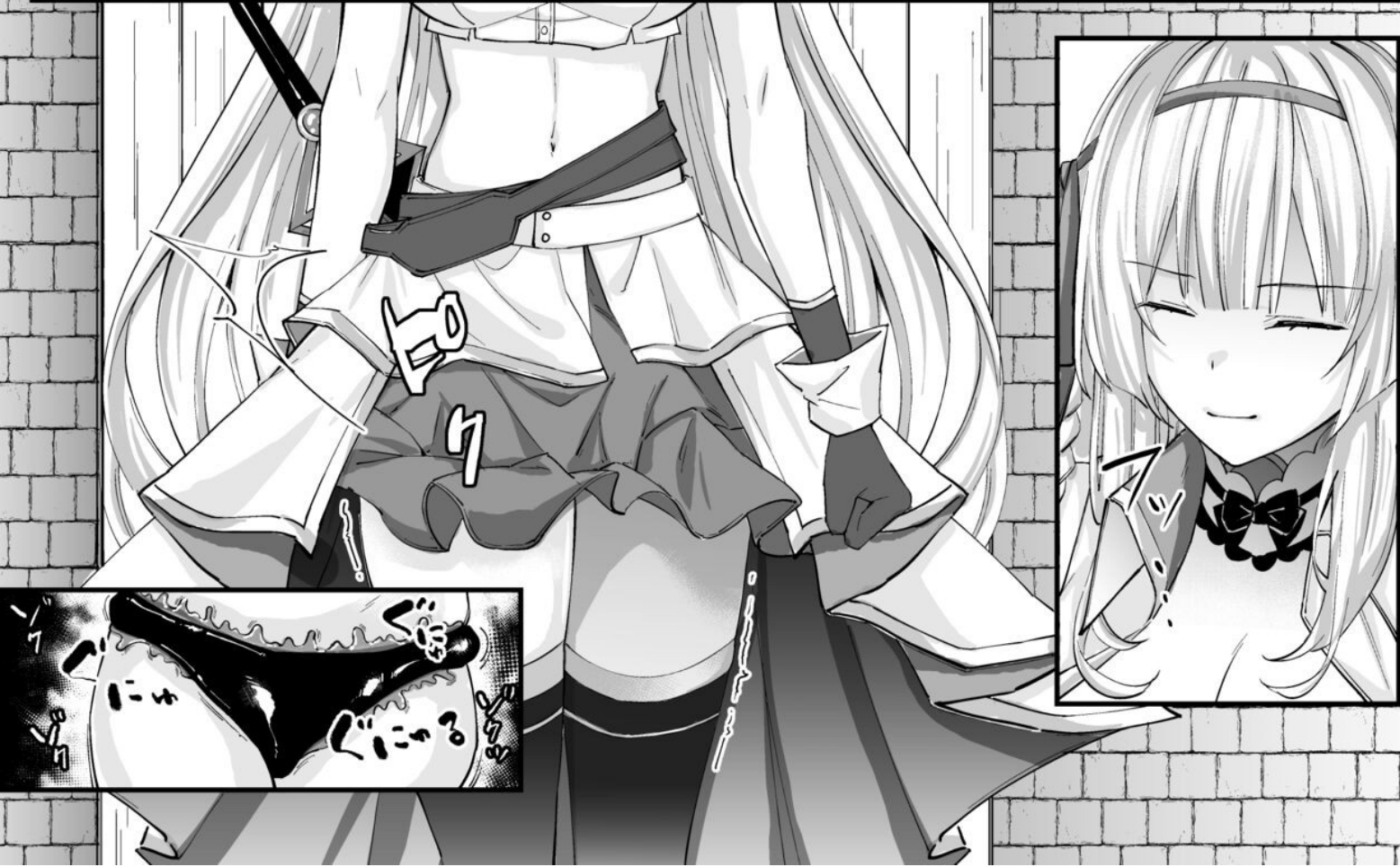
んああっ!?

吸わないで……ッ!











ダメね

びくともしない...

ゴト。

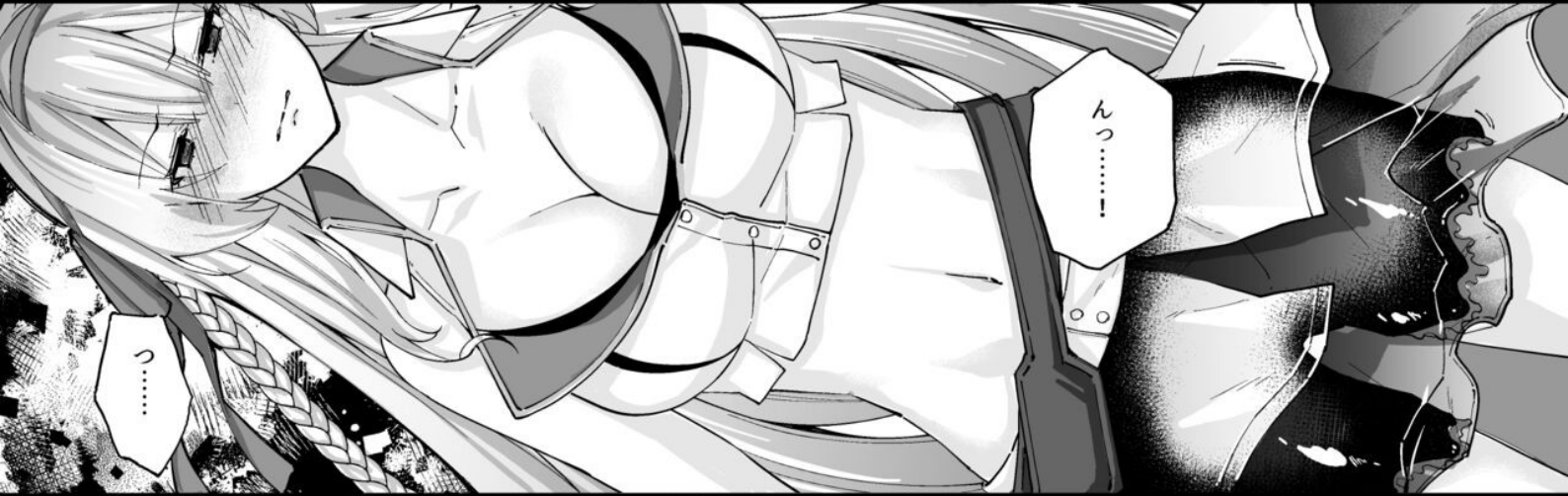
はぁ...

成長してるって...?  
ゴッ

でも誰に...

誰かに  
相談しないと...

アリシアは怪しげなものに寄生されたということを誰にも話せなかった







んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん...

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん...

んんん







数週間後

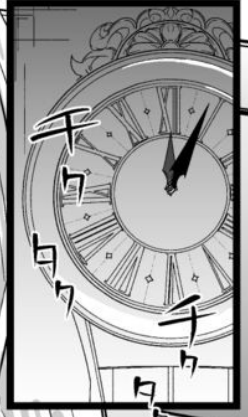
ん……っ

カ  
カ  
カ  
カ  
カ

んう……っ

はあ……

ア  
ア  
ア



……おかしいな

いつもなら  
そろそろ……

アリシアの体は  
触手によって  
開発されていた

はあ……

はあ……

はあ……

普段であれば触手が激しく  
動き始める時間であった

アリシアはそれを  
無意識のうちに  
望んでしまっていた

寝ている間も  
ずっと弄られ続けて  
いたのだから当然だ



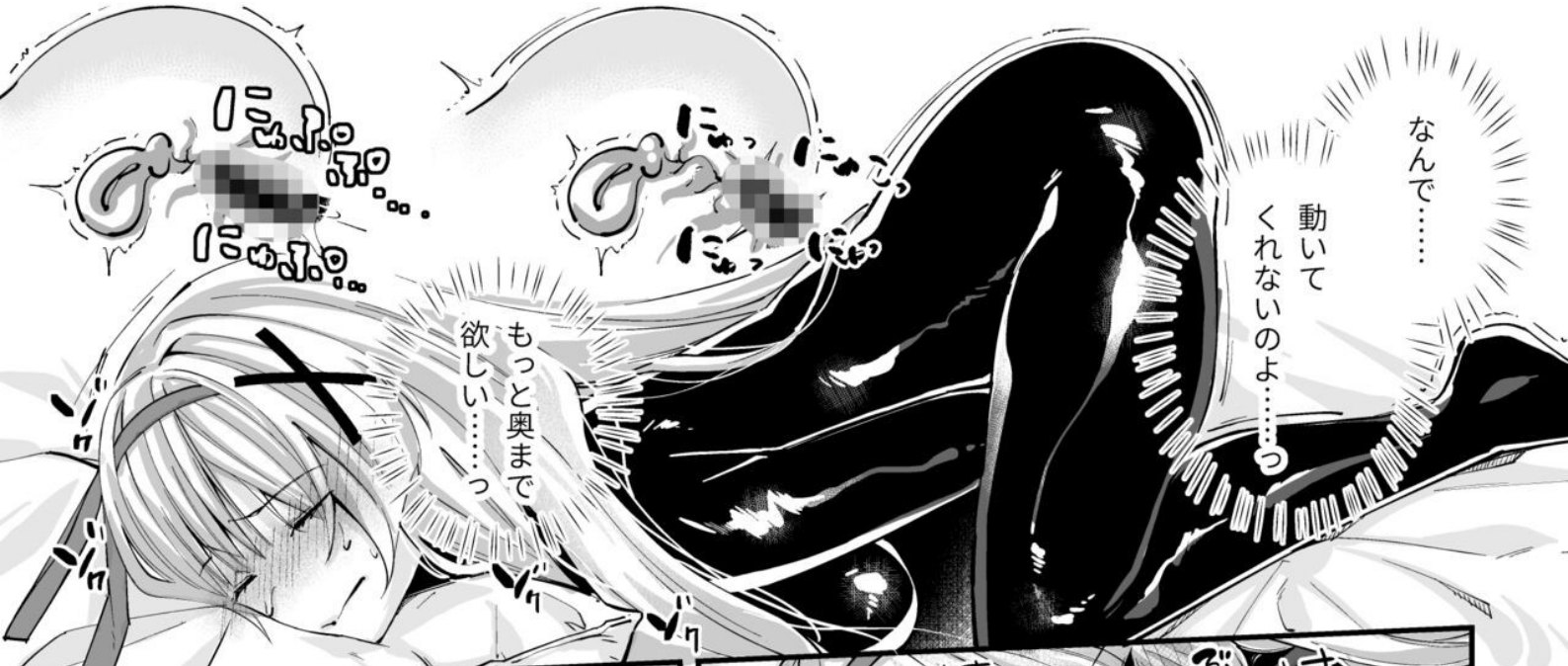
しかしここに来て  
急にその刺激が止み、  
彼女は戸惑っていた

なんで……  
動かないのよ……っ









なんで……

動いて  
くれないのよ……

もっと奥まで  
欲しい……っ



普通ならば  
そんな目的で  
使用するなど

言語道断だと  
一蹴していただろう



何か



だがこの時の  
アリシアの思考は

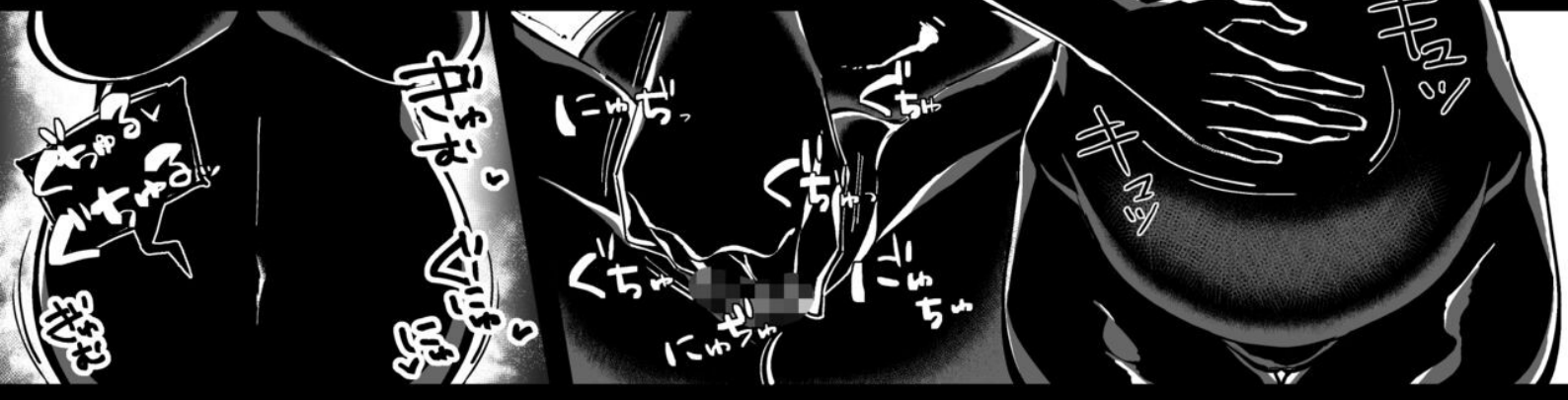
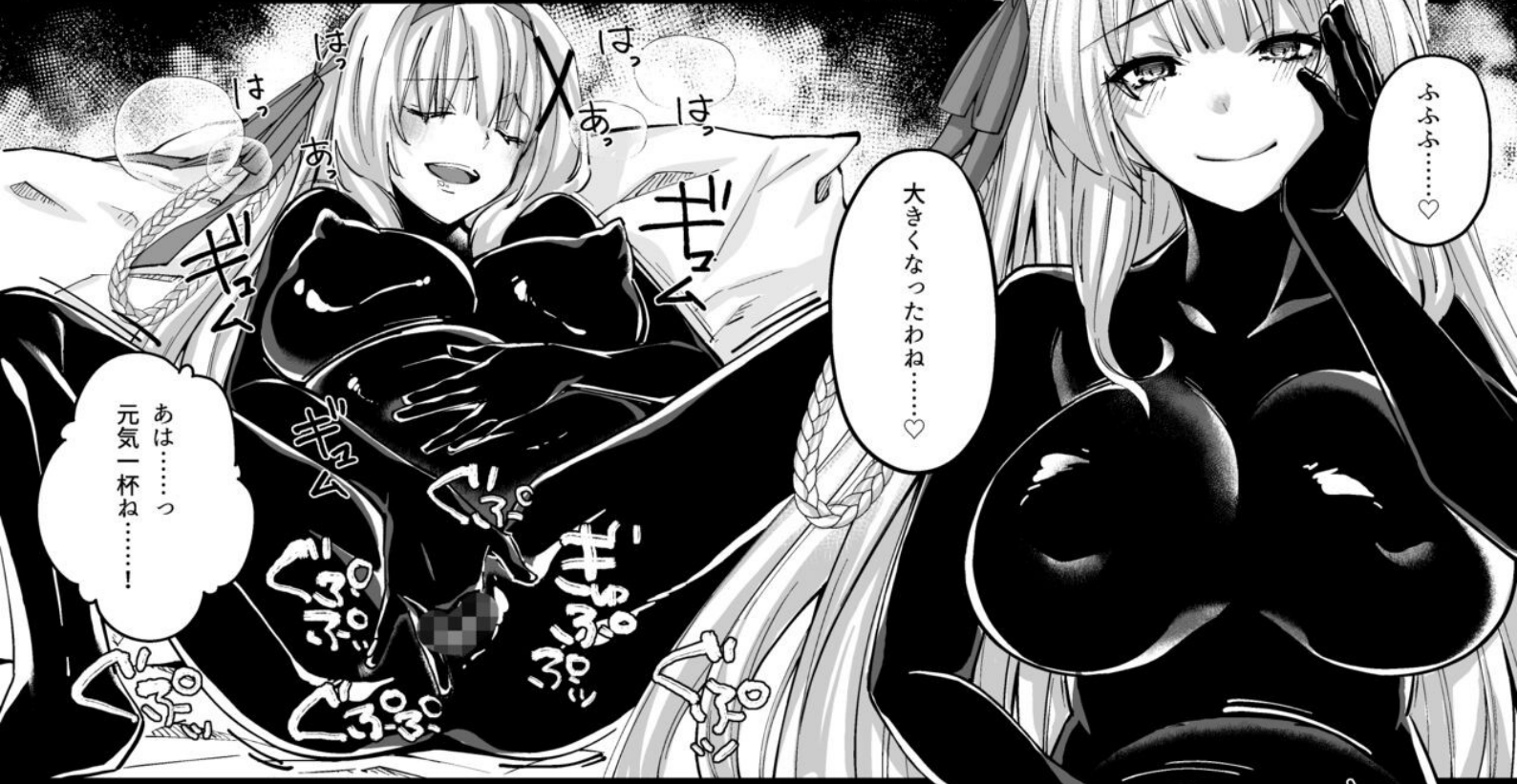
アリシアにとって  
剣は騎士の誇り  
そのものである

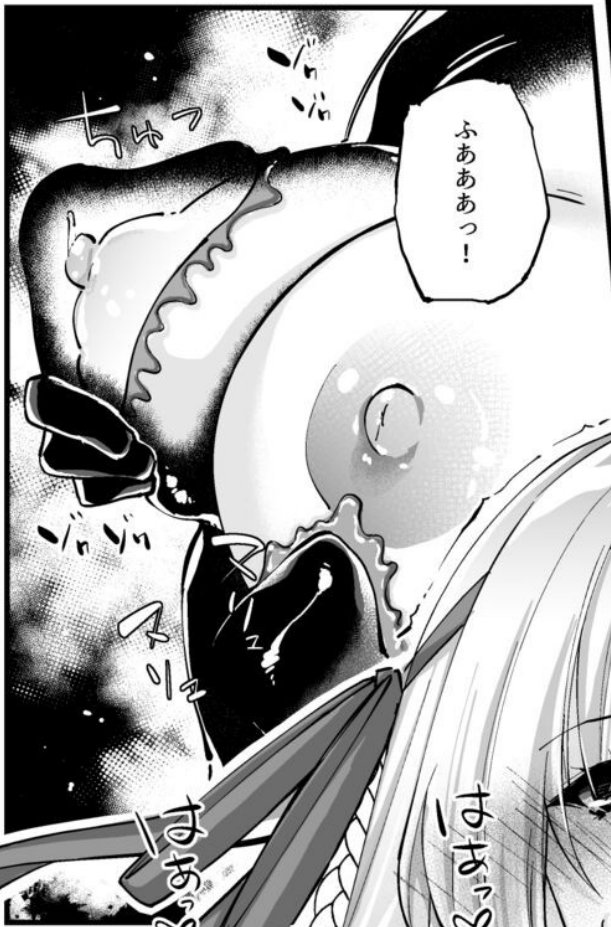
快楽に  
支配されていた

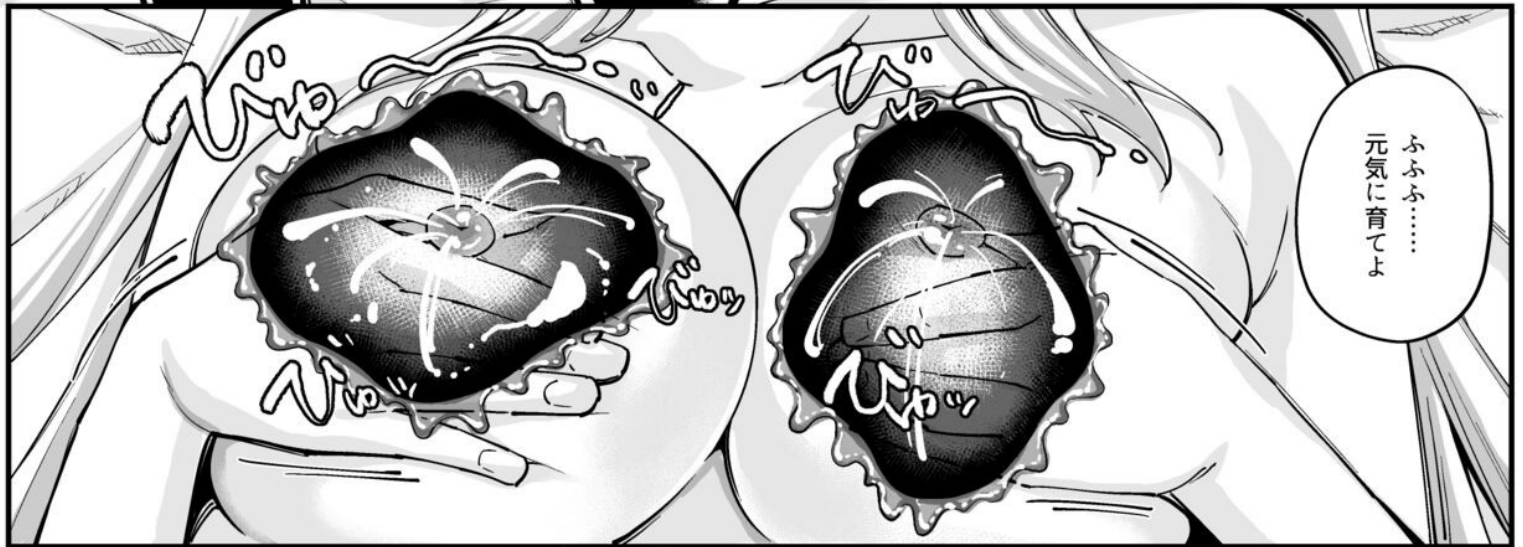
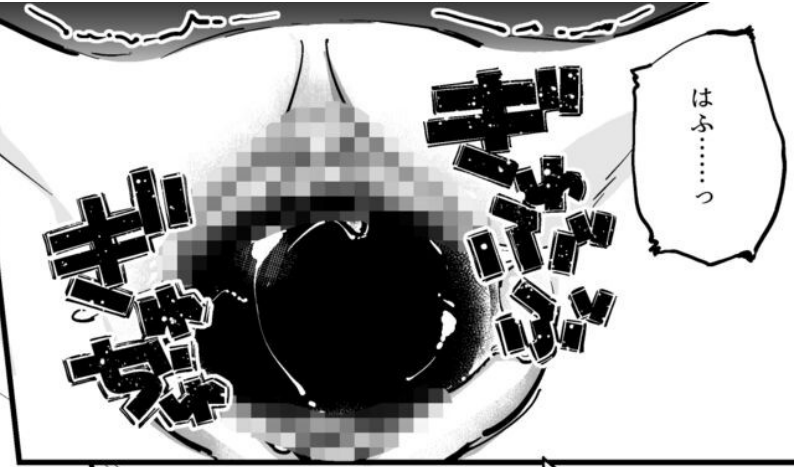


さらに  
数週間後

アリシアは  
体調不良を理由に  
部屋に引き籠っていた









この子たちを  
外に産みに  
行かないと……



これ以上  
大きくなったら

さすがに隠し  
通せないか……



そうだ……



いっそ



アリシア様が  
行方不明に  
なっただと？

最近様子が  
おかしかった  
らしいが……

街の外の巡回に  
出たきり帰って  
こないらしい

最近頻発してる  
誘拐犯の仕業か？

とにかく  
探さないと！

ご無事であれば  
いいのだが……





んあああつ……!

はあっ  
はあっ  
はあっ

はあっ♡

はあっ♡

めほ  
ぽ

ぽ  
ぽ  
ぽ



大丈夫  
怖くないぞ

気持ち悪いのは  
最初だけ……

すぐに貴女も  
この子が愛おしく  
感じられるように  
なるから♡

すず……

すず



ふぎいいいっ!

入って  
くるううっ!!



ひっ……!

やだっ!  
来ないでっ!

いやあああつ!

気持ち悪いっ  
取ってえっ!



ふふ……  
お待たせ♡

ふふ

ふふ

ふふ



ひゃうっ!?!  
お腹、中、  
広がって……っ!?!



あッ  
あッ



いい感じに  
定着したようだ♡

取ってえ……!

はう……っ!

ひゃっ

ああっ

んう……っ!

いいおっぱいだ

これなら  
すぐにでもミルクを  
出せるようになる



あッ  
あッ

やめてええ!  
頭おかしくなるっ!



すごい勢いだろう?

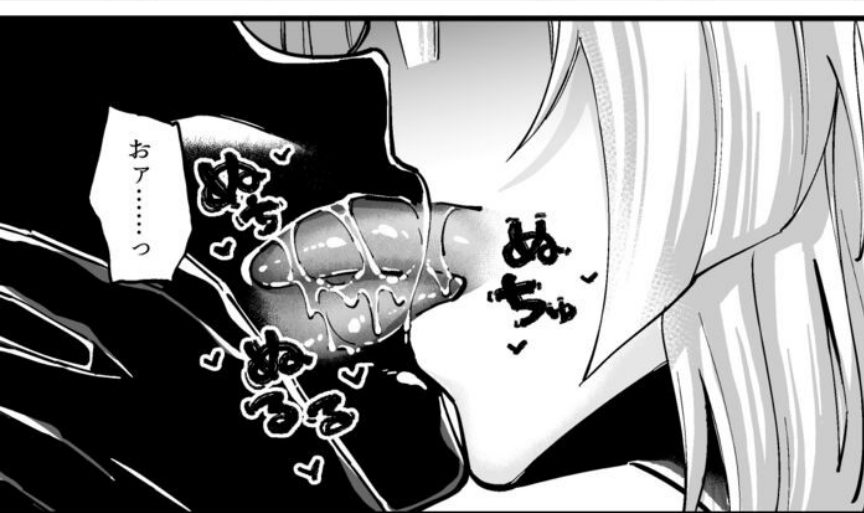
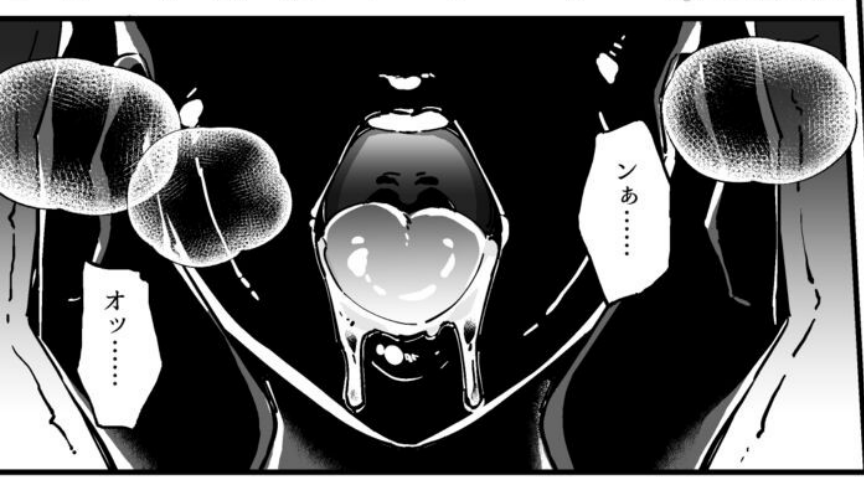
私でコツを  
掴んだみたいでな

はっ

はっ

私が産んだ触手は  
ものの数十分で  
人の体を覆い切って  
しまうんだ

はっ







それから数か月後――

いたぞー！

誘拐された  
女性たちを発見！

これはむごい……  
だが、皆息はあるようだ

治療術師を連れてこい！  
かなり衰弱している！

アリシア様！  
助けに来るのが  
遅くなってしまい  
申し訳ありません……！！

救援に感謝する

私より他の女性たちに  
手を貸してやってくれ

おお……

さすがは  
アリシア様……！！

アリシア様  
誘拐団の者たちは  
どこへ？



すまない  
私にもわからない

急に慌ただしく  
騒ぎ始めたと思つたら  
私たちを置いて  
出て行ってしまった

さては我々の  
接近を察知して  
逃げ出したか……

追え!

まだ遠くには  
行っていないはずだ!



もちろんで  
ございますとも!

我々が責任を持って  
彼女たちを街まで  
連れていきますから



捕らわれていた女性達が  
元の生活に戻るように  
してやってくれ



ああ……  
よろしく頼むぞ

エムリ







